

学 会 記 事

第17回研究大会は、1996年11月9日（土）・10日（日）の両日、武蔵野の緑が色濃く残る東京経済大学で開催された。共通論題は、「EUとアジア」であり、Region-to-Regionという新しい次元にスポットをあてた3つの報告が行われ、それをもとに活発な質疑応答が繰り広げられた。自由論題の部では、マーストリヒト条約再検討会議（IGC）、「民主主義の赤字」問題、地域政策、M&Aの新潮流が、それぞれ法律、政治、経済の観点から検討され、報告者とフロアとの間で熱っぽい知的交流が行われた。第1日目の日程終了後、開催校東京経済大学の御好意のもとに、会員多数が出席して、和やかな懇親会が開かれた。

研究大会と並行して、11月9日・10日の両日、理事会が開催された。理事会における主な決定事項は、以下の通りである。

- 1) 学会名称を日本EU学会とする。英文名称は、The European Union Studies Association — Japan（略称：EUSA-JAPAN）とする。
- 2) 学会名称の変更にともない、学会規約の変更を検討し、1、3、5、9条の「EC」を「EU」に修正することとした。
- 3) 澤田昭夫理事（政治部門）を新理事長に選出した。
- 4) 1997年4月より、学会事務局を東北大学経済学部田中素香研究室に移転する。

〔プログラム〕

□第1日（11月9日）

午後の部（13時～16時30分）

司会者 島野 卓爾（学習院大学）

(1) ASEM（アジア欧州会合）

—新しい対話の誕生—

田中 俊郎（慶應義塾大学）

- (2) EU 通商政策の展開とアジア
—対アセアン政策を中心に— 原島 正衛 (北星学園大学)
- (3) アジアにおけるヨーロッパの企業の戦略と人事管理
フィリップ・ドボル (広島市立大学)
- 総 会 (16時40分～17時)
- 懇親会 (17時15分～19時15分) 6号館7階大集会室

□第2日 (11月10日)

- 午前の部 (10時～12時) 司会者 辰巳 浅嗣 (阪南大学)
- (1) マーストリヒト条約再検討会議と政治統合 松隈 潤 (西南学院大学)
- (2) EUの「民主主義の赤字」と欧州議会 児玉 昌己 (長崎純心大学)
- 昼食休憩 (12時～13時) 理事会 (12時～13時)
- 総 会 (13時～13時15分)
- 午後の部 (13時15分～15時15分) 司会者 清水 貞俊 (立命館大学)
- (1) 経済通貨同盟段階の地域政策
—Cohesion 概念— 棚池 康信 (近畿大学)
- (2) 欧米における M & A の新潮流 貴志幸之佑 (大阪商業大学)